# 第47回通常総代会発言（要旨）

## 西品川支部お元気ですか電話がけ

西品川支部
**小林豊子総代**

コロナ禍の中、組合員へのお元気ですかの電話がけを2年間続けています。西品川支部ではさまざまな行事を地域で行ってきましたが、コロナ禍でできなくなりました。なんとか組合員どうしのつながりを維持したいと支部で話し合い、電話がけをすることになりました。早速、65歳以上の組合員900人以上の方に電話がけを行いました。

毎月第3土曜の午後、三ツ木グループの職員の協力を得て電話をかけました。2年間で、留守宅への再度の電話がけもある程度終わった段階で、状況を整理しました。デイサービスやヨガなどを利用されている方が最も多く、家族と同居や一人暮らしでも近くに家族がいてお世話している方もいました。

三ツ木周辺の住環境も様変わりしたことと世代交代が進み、三ツ木診療所との関わりが薄くなってきた方もいましたが、話し出すとなかなか止まらず電話を切れない時もありました。

今回の電話がけで組合員の状況を知ることができたことから、名簿の見直しの必要性と今後の関わり方の工夫が求められていると感じました。

5月に入り、新組合員に電話しましたが、「いつも三ツ木診療所にはお世話になっています。とくに三ツ木だよりは楽しみで、何かお誘いの記事が出ていないかと心待ちにしています」とのコメントをいただきました。やはり活動の再開で組合員も元気になり、私たちも元気になることは今後の活動の柱になるのではないでしょうか。

## コロナ禍でも工夫して続けた若返り班

大森糀谷支部
**安田久美子理事**

2020年度、緊急事態宣言の発令で会場が閉鎖され、班の活動を休止しました。私たちは大田区の東糀谷ゆうゆうくらぶで月2回活動をしていますが、2021年は条件つきで会場の使用が認められました。

使用の条件は、4・5月の使用は昼間だけ、6月からは夜の使用も許可されましたが体操は不可。体操をする班なのに体操はダメとなりピンチに…。それでも何か工夫して続けようと相談し、特技があるメンバーを中心に内容を考えました。

まずは音読サークルに入っている方に教えてもらいました。発声の練習にもなり、楽しくできました。その次は折り紙が好きな人が中心になって作品をつくりました。また、工作が好きな人を中心に割り箸と楊枝で花入れも作りました。

ずうっと何かつくっているのも大変なので、次はウォーキングや体操をはじめました。7月からは体操可となり、再開しました。9月になってスクエアステップを行いました。今年の5月にはふるさとの浜辺公園ウォークも行いました。

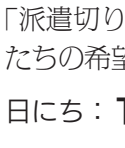
## すずらんの事業計画について

すずらん・ゆたか
**川居直美理事**

ヘルパーステーションすずらんは訪問介護事業を行っています。2021年度は3事業所で赤字となってしまいました。その原因の一つはヘルパー不足による人員配置が不十分になっていたことです。紹介会社などからのヘルパーもなかなか定着しないのが現状です。

もう一つは、常勤職員の経営報告の検討が各事業所で不十分ということです。どうしても現場での時間をこなすことで手いっぱいとなっていたのです。とくにサービス提供責任者は本来なら平日くらいは事務所にいなければならないのですが、すずらんの場合3分の2は現場へ出ている状態です。サービス提供責任者を育てることに力を入れてこなかったことが赤字の原因ともなっています。

今年度は介護部長を置き、効率的にヘルパーを配置し、ヘルパーの採用にも力を入れます。



## 組合員の要求から生まれた「月1ウォーク」

池上中央支部
**星野弘子理事**

コロナ禍でさまざまな活動が制限される中、文化・スポーツ委員会では、何かできることがないかと模索し、他の生協の活動も参考にしながら、屋外へ出て密集せずできる活動なら可能と判断しました。組合員へのアンケート調査でも、外出しないことによるうつと体力の低下が不安材料でした。参加したいイベントで多かったのが「みんなでウォーキング」でした。そこで「月1ウォーキングまち歩きの会」を考えました。

毎月第1水曜日の10時からと決め、定例化しました。2時間くらいで6キロくらいを歩くことにしました。また、組合員が楽しく歩けるようにと考え、カードを作り参加するごとにシールを貼ることにしました。

毎回さまざまなエピソードが生まれます。参加者の中で歩くコースの道案内をしてくれたり、地域の歴史や史跡の解説をしてくれる方もいました。毎回欠かさず参加される方がおり、シールカードがいっぱいになったところで「まち歩きの達人賞」を出すことにしました。

この「まち歩きの会」の企画は組合員の要求を素早くとらえたもので、コロナ禍から解放されるひとときとなりました。

すべての議案が賛成多数で可決されました

## コロナ禍での大森東しあわせ食堂

大森糀谷支部
**諏佐史枝総代**

2016年12月にはじまった「大森東しあわせ食堂」。コロナ禍で、みんなで食事をするスタイルは、2020年1月が最後となっています。6月まで中止していましたが、7月からフードパントリーとして再開しました。

2021年1月、感染急拡大で中止しましたが、事前予約の方に電話をかけ、状況を確認して必要な分の食材を届けました。電話がけによってフードパントリーの必要性を再確認することができたので、2月からは感染対策を徹底した上で、月1回定期的に開催しています。

フードパントリーでは、あまり調理の必要がないレトルト食品やお米、野菜などをお子さんの数分小分けにして渡しています。クリスマスや七夕などには、少しでも子どもたちが楽しめるような飾り付けをするなどスタッフで工夫しています。

フードパントリーを再開したときは20数人でしたが、現在は毎月70～80人分の食材を配布しています。フードパントリーで配布しているものは、近所の方や組合員からの寄付、企業からいただいたもの、農林水産省からの備蓄米などいろいろです。

物価が上がっていく中、ますますこういった活動の必要性を感じています。駆け込み寺の役割、地域の誰かとつながる取り組みとして活動を続けていきたいと思います。

## 語り継ぐこと、そして耳を傾けること

大森糀谷支部
**鏡　政子総代**

私の住む地域に九条の会を作ったときに、大田病院の高柳先生に講演をしていただきました。その際、先生は「みんなの寿命を縮めているのは結核でもないし、ガンでもない、それは戦争です」という話からはじめられました。

私も大分歳を重ねましたが、交流をする場は、今は週2回通うリハビリの時です。そこでリハビリに来る女性の方が「おしるこ食べたいんだけど、ないの？　何か食べるものちょうだいよ、お腹空いているの」とおっしゃるのです。周囲の方は敬遠されますが、私はよくその方の隣に行くようにしています。

ある時その方が、集団疎開の話をされたことがありました。その時、東南海地震が起きて、学校が倒壊してしまい2人くらい友人が亡くなってしまったそうです。それから秋田の方へ疎開されたそうです。

その話を毎回私にするので、すっかり内容を覚えてしまいました。ただその方は、他のことはわからなくなってしまっていても、このときの記憶だけはしっかり覚えていて、どれだけ戦争が大変だったかということを私は学びました。語り継ぐことの大切さとそこに耳を傾けてほしいと思います。

歳をとっても何かしたいと思っています。リハビリ施設には一人になった方も多くいます。その方に生協への加入を勧めて喜ばれました。また、一人暮らしの方は近所づきあいなどあまりなく孤独になりがちです。こうした方にも加入を勧めて組合員になってもらいました。

## 第45・46期役員体制

本総代会で役員の選出について採択されました。新体制の下、「健康で安心して住み続けられるまちづくり運動」をすすめていきます。

**理事長**　植田栄一
**専務理事**　野口修二
**常務理事**　安斎晴夫・大澤千恵子・星野弘子・前沢淑子・伊藤豪
**理　事**　浅見美代子・東充洋・五十嵐肇・石川八郎・石渡光史・伊藤響子・江口雅人・江部謙五・亀田やすみ・川居直美・神田瑞穂・橘内信一・小林太平・小林千夏・小林寛・笹尾邦昭・志田恵子・下條都賀子・下山珪子・高野祐子・高橋貴美子・田村幹彦・長澤伸彦・二木和雄・波田野皓二・波多野重紀・辺見亮・馬島知子・村松茂・安田久美子・柳佐和子・横山直城・吉田由紀
**監　事**　伊藤邦夫・黒田浩康・武政良久

退任された役員の皆さま、本当にお疲れさまでした。これからもよろしくお願いします。

**退任理事**（4名・敬称略・50音順）
色部祐・大森由美子・金子悦子・森久恵

## 映画「時の行路」
### 大田上映会のご案内

「非正規」で働く人びとの現在を通して日本の未来を問う問題作
「派遣切り」に立ち向かう父と家族と仲間たちの希望の物語

日にち：**10月24日（月）** 3回上映
会　場：**大田区民プラザ大ホール**
（東急多摩川線下丸子駅下車）

詳細は本紙同封のチラシをご覧ください。チケットは城南保健生協でも取り扱っております。